

第6回文化芸術振興条例検討委員会 議事録

と き 令和4年4月27日(水)

出席委員 関委員長、篠田副委員長、藤田委員、太田委員、中村委員、桑原委員、原田委員
吉田委員

関

令和4年度初めての会義。有意義な会議になればと思う。お手元の資料を確認したいと思う。議題、富良野市文化芸術振興条例たたき台、桑原先生作成のアンケート、中貝氏へのオンラインインタビューの4種類。

本題前に、先日少人数ですが中貝さんにオンラインインタビューを行った。中貝さんは2001年から兵庫県豊岡市の市長を5期務めた人物で、小さな世界都市を掲げていた。在任中に城崎温泉に国際アートセンターを作り、世界のアーティストが集まる街づくりを目指したが、今は引退し一般人となっている。

演劇を中心にした街づくりの取り組み方、市民に対してどのような工夫が必要かという知見を頂きたく、篠田副委員長、太田さん、墓田さんとミンでオンラインインタビューを行った。篠田さんに話を聞いての感想を頂きたいと思う。

篠田

中貝さんには国際アートセンター立上げの時から何度も豊岡市の状況を伺い勉強させて頂いた。中貝氏が市長を務めた5期の間にどのようなエネルギーを費やし、豊岡市に公立大学を建てたのかという実績の経過をどうしても聞きたかった。文化芸術振興条例を作ることが最終目的ではなく、体制作りの段階できちんと市民に浸透したものでなければならぬということに感銘を受けた。

豊岡市も(条例の柱が)なぜ演劇なのかという説明に苦慮していたが、演劇をコミュニケーションが学べるツールとして学校教育にも取り入れたり、演劇という言葉をやさしく使っていた。また、条例作成には反感を買わないことも大切ということも印象に残った。

関

富良野には演劇が根付いていて、すでに財産であると外からも認識されているという中貝さんの言葉に感動した。しかし、演劇以外のジャンルを好む人の反感を買わないことが今後の課題。

中貝さんは教育に着目してくれたが、演劇を科目教科として学ぶという事ではなく、コミュニケーションなど広く文化として考えることが面白いと思った。豊岡市は3つの小学校を対象に大学の先生を呼んでコミュニケーション教育を行い、子供にどのような変化があったかデータ化している。それを見ると、コミュニケーション教育を受けることによって子ども同士の関係性が良くなったりするので、演劇の捉え方をもう少し広げた方が良かった。

太田

演劇を前面に出すと関係ない人にはなぜ演劇だけ?となる話があったが、やはり富良野は演劇なので演劇を出さなければいけない。その中で敵を作らず、そういった人たちにも理解してもらうには、演劇が教育だけでなく市民、街全体に効果を持てるというのを具体的に

する必要がある。それはコミュニケーション能力培われると何が起きるかということで、人と関わることが日常になる事によって、一人暮らしのお年寄りの面倒を見るようになったり、子どもの登下校を見守るようになったりなど、具体的なことをイメージさせる。そういった演劇という言葉にとらわれない、自分たちの生活にどれほど効果があるかを文章にする必要があるということが一番思った。

関

富良野にはプロの劇団があり、経済的な価値を高めたり、観光の活性化に一役買うなど、市民生活に劇団がいかにか大事か考えていく必要があるのではと思う。では、みなさん中貝さんのインタビューの感想をお願いします。

篠田

もう一点私が気になったのが、演劇という言葉を使うとしたら、他ジャンルの人たちにもメリットがあると説明し、理解してもらうことが必要という点。極端ではあるが、農業従事者やガソリンスタンドの店員など、そういうところにまで説明することが大切だと感じた。

藤田

富良野市内に演劇という言葉に抵抗がある人は、もうそんなにいないと思う。表現は考える必要があるが、演劇を文化振興条例の柱にすること、目的の中のひとつに取り入れていくことは問題ない気がする。

太田

あまり配慮過ぎてボカしてしまうと、富良野らしさがなくなる。

関

見出しは演劇文化振興のように、演劇をボンッと出すことは良いと思う。問題は文言で、そこにどうやって市民の生活に役立つのか、街に役立つのかという言葉を盛り込むかだと思う。

中村

演劇は富良野に根付いていると思う。表現の仕方も市民には演劇のメリットを伝える文面が入っていれば問題ないかと思う。また、市民にも温度差があると思うので、どこかで対話の機会を設けるだとか、しっかり構造化していけばいい。

たたき台は素晴らしいと思うが、具体例を入れたらいいと思う。条例という大きな目標・目的があった中で、重点政策があって基本政策があるような形で、条例の下に、今後の富良野のあるべき姿を具体的な方策として作っていくことが大事だと感じた。

桑原

芸術文化の最大の効果は人間の心を豊かにすることだと思う。条例を作っていく上で合意形成をはかることは大前提で、丁寧に進めて行くことは必要なと思う。

篠田

今の豊岡市は条例がなくても文化が浸透しているが、振興条例ができなかったことを非常に悔しそうに話していた。

原田

演劇という言葉に焦点をあてて使うのであれば、表現をうまく持っていけると良い。

関

桑原先生の話にも通じるが、条例を作ってドンっと市民に提示すると驚くと思う。作る過程で市民と会話し、合意形成をはかることが大事だと思った。なぜ演劇を条例の柱にしたかとか、演劇を通じて豊かな生活を実現していくということを伝える必要があると思ったので、今後のやり方は考えなければいけないと思った。

吉田

原田さんの言うこともわかる。言葉の順番が演劇のためでなく、街づくりを活性化するために、富良野に根付く演劇という特色を利用する。何のための演劇かということを出した方が納得されやすいので、歴史的にある演劇というのを活かして私たちの街を豊かにしたいということを盛り込む方が落ち着くと思う。

関

中貝さんの話はまさにそういう話だった。市民は演劇には何のメリットがあるのかという文言を先に読むと思うので、そのように順番立てて整理をしていくような戦略が必要な気がする。

藤田

演劇に特化しているとなっているが、たたき台を見ると演劇文化振興条例という捉え方はしていない。演劇は文化の中のひとつに過ぎないという形でたたき台も作っているので、神経質になることはない気がする。

関

本当は音楽文化など全部出さないといけないが、演劇文化だけになっている。そこは私たちが演劇を財産として、プライドを持って出していかなければいけない。

藤田

すでに演劇が財産であるならば、街のエネルギーのひとつになっていることは間違いないので、反感を買う云々はあまり意識する必要がない気がする。

関

今条文案は演劇が持つ、作る・育む・癒すとなっているが、もっと普遍的な価値からいけばいいと思う。

藤田

これは私が書いたが、これが絶対ってことではない。私も演劇工房立上げメンバーの一人として、その時に演劇をその一つとして書いたので、私の頭でできたのはこの言葉しかなかった。

関

音楽好きな人から見るとアレってなるので、もう少し普遍的な価値からいった方がいい

と思う。これはこのままで問題ないが、あとは文言。

それではワーキンググループの進捗状況について、2つのグループから案が出ている。一つが条例のたたき台。もう一つがアンケート。まずはたたき台チームからお願いします。

藤田

私はアンケートが合意形成をとる上で大事だと思うので、初めにたたき台ありきではないと考えている。最初に市民の考えを聞き取ること。その先の討論会などで文化振興条例とはこういうものだという資料としてたたき台があると思う。それを踏まえ、アンケートの結果を取り入れながらたたき台を昇華させていく流れが良いと思う。

関

アンケートチームの概要を説明いただけませんか。

桑原

これまでの教員生活の中で全国に知り合いができ、条例をつくる作業をしているので参考になるモノはないかと聞いた。その中で沖縄県の先生と波長が合った。沖縄は観光地で、伝統文化のエイサーがある。あと、沖縄には「Dr.コトー」というメディアによる文化がある。短絡的な発想だが、「北の国から」と「Dr.コトー」が通じて、沖縄と富良野の文化に対する捉え方は近いものがあると思い、宮古市が文化振興条例を作る際に取ったアンケートを頂き、それをベースに考えた。

今日の資料は市民向けのものだが、関係団体用のもできている。グループの方には渡してある。

アンケートの作りは、漠然とした文化基本条例ではなく、演劇を柱とした文化振興基本条例になるようなモノを目指した。作りの前半は芸術文化の市民の捉え方について、後半が富良野における芸術＝演劇というのが、市民にも根付いているか？という風なアンケートになった。当初は市民の文化芸術に対する意識調査レベルのアンケートにするつもりだったが、やっていく内にこれだけの量になってしまった。集約・分析・考察という作業がヘヴィになったことが今後の課題であるということで、グループ内の話は終わっている。

関

アンケート構成の意図を教えてください。

桑原

1から23番までは、条例を作るにあたりどこでも使える一般的な文化芸術に対する意識調査。27番からは富良野の人間でなければ分からない言葉が出てくるので、富良野に特化した項目として作った。その中で、演劇への意識を探るために、25番は演劇工場という言葉を入れている。また、富良野において「北の国から」はなくならないと思うので27番に入れた。2部構成になっていて、一般的な芸術文化に対する意識の捉え方を図る項目と、演劇に対する意識の捉え方を図る項目といった質問構成にした。

関

1点、最初に演劇工場だけを出すと絞った感じになるので、29番を先にして、そのあと演劇工場を知っているかと連動させていけば良いと思った。順番は少し精査する。吉田さん、中村さん補足説明はあるか。

中村

補足ではないが、恣意的に演劇が良いということだけでなく、僕たちの中でも柱になっているという共通認識が市民もそうなのかという確認も含まれている。市民もそうであるなら演劇を大声で言っても良い確信にもなるし、そうでなければもう一度考える必要がある。そういう温度差を知る文面になっている。また、最後の自由回答がすごく大事であると思っている。自由回答は難しいが、市民から言葉のセンテンスや表現方法を頂き、それを条例に反映するなど、うまい使い方が出来ると思うので、この自由記述の項目を設けている。

吉田

アンケートで意見を取るだけでなく、その後の結果分析が大変だと思う。また、取る時期が4月25日となっているが時期がずれていることと、座談会はどうするのか。

関

3点確認した。すごい量のアンケートで、単純集計だけでなく、クロス集計も必要であるが。どなたが行うのか。

藤田

集計は1000通もあるのであれば、みんなでやらなければ駄目。

中村

幸福度調査でお願いしたときは、2割は集まった。その調査では郵送1000人で、200人。しかし、無作為に抽出した人しか答えられないので、オンラインでの回答もできるようにはできる。

篠田

集約はできるが、分析はどのような風にするのか。

中村

幸福度調査でもお願いしたが、道総研というプロの団体がある。

事務局

道総研は単純に集約・分析を請け負う機関ではなく目的があってやっているなので、それが合致すれば関わる事ができるという回答を頂いた。今回も関わることは可能だが、設問の時から関わって行って集計・分析もしてもらい流れになる。

また、幸福度調査の分析や集計の作業も期間が2、3ヶ月かかってしまう。その辺も課題になる。予算も課題になる。

中村

クロス集計が大変。一つの設問に対し何人回答し、何パーセントかは簡単。この項目がYESだった人がこの項目がNOになる率など、クロスして調査する必要がある。

関

予算がなければ、エクセルがいじれる大学生ならクロス集計はできるはず。統計学を少し知っていれば、クロス集計は全然できる。

太田

お金云々でなく、もちろん設問精査してクロスは考えなければいけないが、なるべくややこしくない項目にして、集計することはできるのではないか。

関

例えば50代と20代が求めるものは違う。そういうのはクロス集計でなければ出ない。年齢、性別、居住歴など色々な要因で変わってくるので、総合的にみる必要がある。単純集計では把握しきれない。この集計に関するところが1点目。

2点目はたたき台の見出しをピックアップすると、条例の事業者の役割、人材育成、乳幼児・児童・生徒の文化活動の充実、文化交流並びに観光資源としての活用、自然との共生共存、食文化の発掘維持、スポーツ文化の振興並びに市民の健康増進、演劇文化芸術の振興の7つなのだが、アンケートがどのようにリンクしているのはわからなかった。条例はアンケート結果に基づいて文言の整理、反映をするはずなのに、わからなかった。教えて欲しい。

桑原

アンケートを作るときにそこは意識していなかったもので、条文と質問項目がリンクする作りになっていない。富良野市民が芸術文化をどう捉え、その中で演劇をどう捉えているのかという作りになっている。

関

(リンクは)絶対必要。今まで富良野市は文化活動の意識調査をまったくやってこなかった。たたき台の項目が7つもあるのに、アンケートがリンクしていないのはもったいない。

藤田

たたき台作成時に、アンケートチームと共有はしてなかった。

吉田

アンケートにたたき台案を載せる話はその後集まる機会がもてないままで連動できていない。同時作業で進めているので連動は難しい。スケジュール的にたたき台ができてからアンケートを作る時間はなかったもので、意識して作っていない。

関

これから結果をどのように盛り込んでいくかを考えなければいけない。自由記入欄も単純に自由記述をさせるのではなく、7つの項目について意見を頂く方が使いやすいと思う。

太田

文章は思いなので重要になってくる。しっかりと書きたい人には書いてもらわなければいけない。

吉田

自由記述から出てきたものに何が足りないかという方向にいった方が良いと思う。吉田がたたき台として初めに作ったアンケートは、(吉田の個人的な想定としては)文化条例を作っていると周知する意味も込めた緩やかなアンケートと、条例ができた段階で文言について聞くアンケートの2段階構えだった。2段階構えはスケジュール的に厳しくなってしまった。

篠田

このアンケートは本当に綿密に出来ていて、次の計画の段階にも活かされると思った。コロナで泣く泣くできなかった座談会をやってみればどうか。文章に書くのは大変だが、思いを伝えることはできるという人はいると思う。

吉田

はじめのスケジュールでは座談会をやってから、作成にかかるというものだったが変わってしまった。また、アンケートを配る時期も後ろにずれてしまった。本当は座談会ができればよかったが、何もないのに座談会をするのもどうかという意見もあった。

篠田

今ならキチンとしたものもできているので、そういう場を作ってみてはどうか。自由記述を端折って、○×みたいにしてはどうか。生の声が聞けるのは重要。

中村

生の声は確実にあった方が良くと思うし、無作為にアンケートを送ることも必要だと思う。座談会には文化芸術に興味がある人しか来ない可能性があるのも、そこを大切にしつつも、無作為なアンケートで違うジャンルの人たちの意見も必要であると思う。

関

自治体は条例を作る前に実態調査をして、この地域には何の特徴があるかというのを出していくもの。今回は同時進行してしまったので、実態調査をいつのタイミングでどう活用するのか。また、自由記述の設問は「活動の場がない」「助成金がほしい」「子供のために何かして」の3つのことが書かれることが多く、これをどう条例に組み込むかは悩ましい。

桑原

関連団体向けのアンケートを集約すると、今先生が言ったような課題が出る項目になっている。団体数の減少、助成が欲しいなど。このような団体としての意見も抽出できる作りになっている。

篠田

アンケートをどうやって振興条例に反映していくのかであるが、市の責務みたいなことなどの具体的なことは載せることができない。計画の方に反映するなど、アンケートを取ったからには完全に無視することではいけないので、想定しておく必要がある。

事務局

検討委員会の役割は条例を作るところまで。条例ができた後、第2段階として計画づくりを進めていく。委員は改めて募集し、新たな体制で行いたい。

中村

最初にアンケートを取った上で、その素材を文化に関わる人たちとの座談会で使い揉んでいく状況が良い気がする。条例はいつまでに作るのか。

事務局

昨年話した時には、9月をメドにスケジュールを組んだ。

関

このアンケートは計画に利用できそうな文言は多いが、条例とどう折り合いを付ければ良いかは難しいと思う。

中村

関係団体のアンケートは今の段階でも問題ないか。

関

関係団体へのアンケートは計画に反映させるため、条例ができてからの方が良い。

中村

条例が制定された後、無作為に市民にもアンケートを配って計画に盛り込んでいくというイメージか

関

その流れがよいと思う。

篠田

タイムスケジュール的に、パブリックコメントは9月とか10月？

事務局

9月は審議会として素案を市に答申する時期。答申後、富良野市としてパブリックコメントをして、市民の意見を聞き、議会に提案する流れになる。

篠田

期間的には9月までにいろいろ固めるということ。座談会やアンケートの実施を計画的に考えないと間に合わなくなる。

関

アンケートは計画に反映させるための下地作りで、関係団体をどう巻き込んでいくかというところ。

中村

この時点で巻き込まないと無関心が起きてしまう。

関

そのために関係団体からスタートして市民に広げていくという選択がよいのではないか

篠田

やはりしっかり説明したい。

吉田

アンケートの目的が、条例に反映させるものなのか、条例作成のための基本資料なのかと、スタートの段階で詰めた方が良かったと思う。スケジュールも後退しているので、かなり前倒しにしないと難しい。

関

条例は広報するだけにはならないと思う。知った以上は意見が出るので、一緒に考えてその声を反映していく必要がある。

原田

まず条例のたたき台を決定しないといけない。繰り返しばかりの議論になっている。たたき台に付け加えるものがあるなら付け加えて、各団体に送り回答してもらおう。そこまでいかどうかだと思ふ。

太田

この検討委員会以外の関係団体や文化芸術団体を集めて座談会をするのが良いと思う。その時にここまで進めていると見せられる状態にする。

桑原

アンケートはボツになっても別にいい。作業を同時進行してしまったので、条例の文言が反映されなかったのは事実。ただ、アンケートの機能を果たさないのであれば、条例をしっかり作った上で説明をし、次の段階の計画を作るときに使ってもらえれば。

関

たたき台を市民にどう知ってもらえばいいかばかり議論をしている。たたき台の文言についてひとつひとつ精査しなければいけないと思う。たたき台には私たち全員の名前が出るので、検討委員会の中できちんとこの文言で良いのか議論すべき。

吉田

条例案が少し総花的になっているのでもう少し演劇にフォーカスするという意図で中貝さんとのインタビューが紹介されたと思って、本日の前半の会議に臨んでいたが、そうなのか？

関

中貝さんのインタビューは演劇を中核にした条例にするということではなく、文言が演劇文化振興になってしまう懸念があったので、そこを町との関係性とか文言の位置づけの参考にただけ。演劇中心の条例にするという風には捉えていない。

桑原

演劇を文言として色濃く出していくんだと受け止めていた。

篠田

演劇文化のところに書いてあるので、結構文章が色濃くないか？

桑原

演劇という言葉がワードとして出ているのは、私は良いと思う。工場長が言うそうぞう力をどう捉えるのかで、「そうぞう」にどちらの字（創造か想像）を当てるだとか、そういう話をしていけばいいと思う。ただ、中貝氏さんの事前資料が送られてきたので、演劇を条例の柱にしていくための会義なんだと思っていた。

関

文言の整理は、実際に条例づくりに取り組んだ自治体等にインタビューしながらブラッシュアップしていきたい。柱や趣旨を変えることは全く考えていなかった。

篠田

我々は演劇を中心にやっていこうと思っていて、その裏付けとして中貝さんにインタビューを行った。富良野がとんでもないことをやろうとしているのではなく、先人も行った事例がある裏付けとして話を聞いた。

関

中貝さんのインタビューは、事前資料の位置づけで説明しただけであったが、誤解を招き申し訳ない。時間はないが、たたき台の目的からひとつずつ検討していこうと思う。この言葉を入れた方が良いとか、削除した方が良いとかはあるか。

藤田

目的の条文は様々な自治体の条例を参考にし、持続可能な地域社会の実現を入れたところ。

桑原

富良野市の特色を出すには、ワードを作り置き換えるかとか、演劇をどういう位置づけにするかという議論になるかと思う。

関

条例によって目的は違うので、私たちも何のためにこの条例を作るのか共有しなければいけない。そのあとに特色があると思う。このたたき台は全国の条例を精査しながら富良野に合うものを作っているが、それでも不備があると思うので意見が聞きたい。

桑原

たたき台チームが十分な時間をかけて議論したという前提で見ると、目的、定義、理念は問題ない。市の責務の箇所にも、以前の会議で中村さんが仰っていた、「街づくり」ではなく、次のステージということで、まち育てあるいはまち磨きという言葉を使えると良いと思う。

関

細かい所だが、基本理念の性別、国籍、民族、職業、障害の有無、経済状況など、それらの文言の順番も議論しなければいけない。また、住んでいる場所による格差を無くす等抜けているものはないかなど、文言一つ一つに意味がある。

篠田

最近「社会的に排除されることなく」のような言葉で包括することもある。

関

職業を入れていいのか。経済状況が入り、何を想定して職業という言葉を使ったかも質問されたときにどう答えられるか

原田

前文は誰が作るのか。

関

市と検討中。

関

たたき台チームで苦労したのが、第11条のタイトル。自然との共生共存でいいのか。内容は富良野に非常にマッチしている。

桑原

関先生は条文を読んだとき、どこに課題を感じ、直した方が良かったか。我々は素人なので、専門的な知見を持つ先生のアドバイスを受けて整理していくのが良いと思う。言葉の順番に配慮することも初めて聞いて理解した。

関

この文言はたたき台チームが作った、市民自らが作った文言。専門的知見があって作られたものではないので、仲間同士で議論していただければよいと思う。

太田

私は基本理念に職業は入れない方が良かった。そういう意見を持てたのは関先生が質問・説明してくれたからで、そのように投げかけてくれると意見を持てると思う。

関

それはたたき台チームに質問したほうがいいのでは？

太田

専門的知識がある人が投げしてくれないと、私はそういうところに引っかからない。

関

皆さんが引っかかるものだけを見ればいい。これを見るのは市民で、皆さんが引っかからなければ、市民も引っかからない可能性が高いということ。まずは皆さんの目線で引っかかるものを見つけなければならない。

吉田

内容は網羅されているが、主語述語が離れていて文章を理解するのが大変。市民に読んでもらっても頭が痛くするのではないだろうか

関

市民に読んでもらうには、読みやすい文章にするのは大事なこと。たたき台は単純に文章が長いので、段落を分けるだけでも読みやすくなると思う。

藤田

条例の文章はシンプルでよいと思う。

関

他に引っかかることはあるか。

篠田

基本理念と市の責務でもが重なる場所がある気がする。基本理念もシンプルな方がよいと思う。

吉田

基本理念は「実現が図られることが考慮されなければならない」など、文章が回りくどい箇所があるので、「実現を図るべき」などシンプルにすればいいと思う。

篠田

似たような箇所を整理していけばいいかもしれない。

関

市の責務が条例に盛り込まれ、市の意思が現れていると思うが、市の責務の項目が他の自治体よりも長い。

藤田

市の責務も具体的なことを要求しているわけではないので、問題ないと思う。

関

まちづくりではなく、まち育て・まち磨きが良いとのことだが、皆さんはどうか。

中村

まちづくりは世間一般で当たり前のように使われているが、町は既に先代たちが作りできている。なので、昔からの良いところは残し、変えるところは変えていこうという動きをするには、まち育てという表現の方が良いと思う。

関

まち育ては上からのイメージがあるので、注釈を付けて、対等な関係でみんなと一緒にまちを育てていこうとした方がよいと思う。

事務局

基本理念の箇所、1項であらゆる人と書いてあるのに、2項で障がい者その他と書いてあるのがクドイと思うので、まとめても良いと思う。

関

1項は人に着目し、2項は施設の運営に着目している。対象が違ってくるので、大事なポイントになっている。

藤田

3条4項と4条3項はどう整理すれば良いか。基本理念と市の責務で違いはあるが、同じだと思う。

関

3条4項はカットで良いと思う。

藤田

基本理念の1項が長い。「乳幼児から高齢者まで」という文言は入れた方が良いのか。また「あらゆる市民～雇用創造」の2、3行はいらないと思う。

関

「乳幼児から高齢者まで」という表現は「年齢」にすればいい。文化的権利が何を指すのか、何を権利として保証するのかという箇所も長い。工夫が必要。

吉田

文末も「しなければならない」とか「することとする」などになっているが、「～する」ではいけないのか。また「～努める」のような文末を簡単にできないか。

関

「努める」と「しなければならない」は強制力が全然違うので、「努める」はあまり使いたくない言葉。

藤田

第7条の「事業者は第3条に規定する基本理念を理解し地域社会の一員として文化芸術活動の活性化に努めるものとする」という箇所はいらない。

関

これは文化芸術団体だけでなく、ビジネス団体や事業者に向けても一緒に文化芸術活動をしましょうという意味で入れているはず。これがないと文化芸術団体の役割だけになってしまう。皆さんがいらないというなら削除するが？

吉田

文化芸術団体及び事業者の役割とまとめればいい。

関

文化芸術団体の役割は芸術文化の担い手としてのもので、民間事業者に馴染まない文言。1項を文化芸術団体にして、2項に事業者の役割を入れてはどうか。

関

観光資源としての活用の項目では伝統文化と文化財となっているが、これは分けた方が良いのか。文化財はいくつあるのか。

藤田

北海道中心標がある

関

伝統文化は食文化等の「等」に入れてもいいのではないか。埋蔵文化はあるか？

藤田

縄文遺跡は200ヶ所以上ある。

関

伝統文化より文化財を先にする。

藤田

第8条の人材育成も長いので、3つに分けた方が良いと思う。

関

第11条の自然との共存共生が本当に難しい。何をやりたいか定まっていない。最初の2行はコンパクトでわかりやすいが、そのあとが問題。

篠田

豊かな自然景観の説明文のようになってしまう。

関

最初2行だけだと文化芸術条例に盛り込まなくても良いが、この特徴を活かして文化創造活動に活かすというのが大事。

吉田

自然は文化活動を生み出す源であると解釈してはどうか？

関

その文章は素晴らしいと思う。

関

次は食文化の発展・維持について。

藤田

富良野の食文化は何なのか？

桑原

たたき台の条文は農業振興に読めてしまった。食文化というのは秋田のきりたんぼや沖縄のソーキ蕎麦など伝統的に伝わってきたものをイメージしていた。

篠田

富良野の食文化は野菜そのもので、それが財産になっていると思う。

吉田

地産地消はとてもいいことだし、農家でなくても、家庭菜園等で野菜を作っていることが文化。

関

富良野には食材が豊富にあって、それが食生活や食文化に含まれるという意志をこの条文に感じる。発展してきているのではなく、これから育てていくんだという意志。座談会で意見を聞くか、今削除するか。どうする？

藤田

意見を聞いた方が良い。

関

第13条のスポーツ文化と健康増進はどうか。ここはスポーツ文化の振興ではなく、市民の健康増進が先だと思う。スポーツ文化の振興は削除するか、順番を逆にするか。健康を増進するために、スポーツが文化的役割を果たしていくとした方が良いと思う。文化芸術振興条例に市民の健康増進が入るのはすごくいいと思う。

関

時間がない中で一通り見ましたが、もっとこうした方がいいなどありましたら遠慮なく言ってください。

中村

2つ提案がある。1つは今後のスケジュールと進め方をまとめた。進め方のアウトラインとして、①関係団体向け座談会、②関係団体用アンケート、③アンケート集計、座談会で出た素材整理、④条例制定に関する委員会活動、⑤条例の答申というイメージ。

次に役割分担。Aがたたき台チームで、座談会までに出せる状態に持っていく。完成しなくても逆にいいと思っていて、一緒に考えようと市民の参加を促せると思う。Bがアンケートのブラッシュアップで、今回のたたき台を加味しつつ作る。Cは座談会の企画設計で、やり方や何を聞くべきかを考える。Dが座談会の素材の整理と意見の集約。Eが答申に向けた条例のブラッシュアップ。

スケジュールは9月に答申するとして、6月までにアンケートとたたき台作成、6月中旬に座談会、それ以降は素材を整理して、7月中旬から9月の期間に条例のブラッシュアップというような感じが良いと思う。

関

関係団体のアンケートは条例に反映するモノなのか、次の計画に反映していくもモノなのかという位置づけを明確にした方が良い。また、座談会を6月まで引っ張る必要があるのか？

中村

準備に時間があつた方が良く思う。

関

6月は私は来れないので、皆さんでお願いします。

中村

6月13日の13:30からと、18:30から行うということで。

中村

委員会の構造についての提案で、墓田さんと安西さんにも事務局としてだけでなく、こちら側に入ってもらい意見を言ってもらう方が良いと思う。